

議会だより

62 のとちょう

2020.11.1

清秋の夜空に
燃ゆる紅葉

9月定例会議・7月会議	2-3
一般質問	4-10
決算特別委員会報告	11
議案をチェック	12
常任委員会レポート	13-14
主な議会活動	15
まちかどインタビュー	
編集後記	16

感染症対策事業を中心に補正

2年度一般会計の予算総額は、184億9230万2千円に



農林業者・漁業者の事業継続支援



主な補正予算

○議会費

- ・新型コロナウイルス感染症対策に活用すべく議員の人件費を減額

○総務費

- ・新型コロナウイルス感染症対策に活用すべく特別職の人件費を減額
- ・行政の電子化・接触感染防止のための電子入札システムの導入にかかる所要経費を追加
- ・選挙費で飛沫防止用のアクリル板やマスクなど、投票所における感染防止対策費を追加

○民生費

- ・新人・再就職介護従事者就業支援給付金を追加

○衛生費

- ・新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの同時流行を防ぐため、1歳から18歳の子どもと65歳以上の高齢者を対象に、インフルエンザ予防接種の自己負担を無料とするための経費を追加

○農林水産業費

- ・新型コロナウイルス感染症による影響を受

けた農林業者の事業継続を支援するための給付金を追加

- ・新型コロナウイルス感染症による影響を受けた漁業者の事業継続を支援するための給付金を追加

○商工費

- ・休業要請を行った指定管理施設の営業継続を支援するための補助金を追加

○消防費

- ・消防署内のクラスター発生を予防するため、能登消防署の仮眠室を改修する経費を追加

○教育費

- ・新型コロナウイルス感染症対策に活用すべく特別職の人件費を減額
- ・GIGAスクール整備事業で学習支援システム等を導入する所要経費を追加

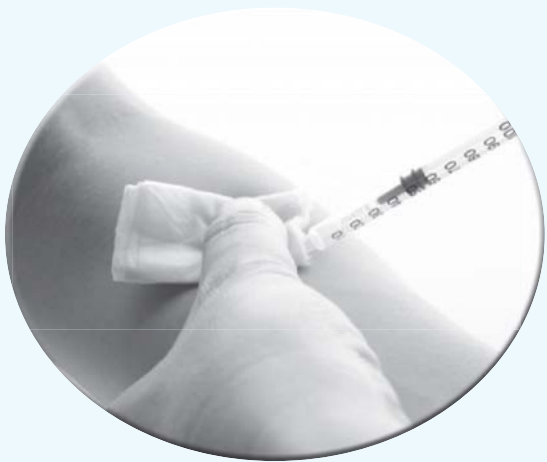
○災害復旧費

- ・8月7日の豪雨により被害が発生した農地9件・農業用施設6件の災害復旧費を追加

令和2年第6回能登町議会9月定例会議を9月7日から17日にかけて開会し、町長提出議案20件、報告1件が提出された。議案は令和2年度の補正予算のほか条例改正、請負契約の締結及び令和元年度決算における認定などであり、各常任委員会（特別委員会）により審査し全議案を可決及び認定した。最終日に議会提出議案として意見書3件が追加提出されそれぞれ可決した。16日には7人の議員が町政全般について一般質問を行った。

引き続き新型コロナウイルス

一般会計補正予算に2億587万6千円を追加し、令和



インフルエンザ予防接種無料化
(1～18歳の子どもと65歳以上の高齢者)



豪雨により崩落した農地 (坪根地内)

その他の主な議案

請負契約の締結について

- 令和2年度旧内浦クリーンセンター解体工事 宮下・西中 特定建設工事共同企業体
- 令和2年度役場跡地整備事業旧役場庁舎解体工事 鼎・鈴平 特定建設工事共同企業体
- 令和2年度能登町立三波公民館建設工事(建築) 須美矢建設株式会社

議会提出議案

能登町議会として意見書を内閣総理大臣ほか関係大臣へ提出

- 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書
- 防災・減災・国土強靱化対策の継続・拡充を求める意見書
- ドクターヘリの安定・持続的運用への支援強化を求める意見書

7月会議

地域経済緊急対策による事業費などを追加するため、 5億5830万8千円の補正予算を可決

令和2年7月21日に『令和2年第5回能登町議会7月会議』を開会し、一般会計補正予算を可決し、令和2年度一般会計の予算総額は182億8642万6千円となった。



プレミアム飲食券 (イメージ)



プレミアム商品券 (イメージ)

いっぱん質問

議員が、町の一般事務に対してその執行の状況または将来の方針、政策的提言や行政への批判などを執行者に直接質問することです。

9月定例会議の一般質問（16日）



吉田 義法 議員

問 コロナ感染症防止策の強化を図れ

答 正しく怖がり正しく予防する

問

町内医療機関の中心である宇出津総合病院内で感染が広がれば医療が崩壊する可能性があり、それを防ぐためには感染症防止策の強化を図る必要がある。

① コロナ感染症患者の受入体制と対応状況は。
② 正面玄関での検温や問診、経路の区分けが必要だと考える。
③ 入院患者や勤務時間外の医療従事者並びに職員に対する感染防止策は。

答 宇出津総合病院事務局長

① コロナ感染症患者は最大で3名の受入が可能。これまでに10件のPCR検査と3件の抗原検査を実施し、いずれも陰性だった。

検体採取はドライブスルー方式を推奨している。

問 患者目線で設備を整えよ

答 利用しやすい病院を今後検討

問

宇出津総合病院の来院患者のプライバシーを保護し、来院しやすい環境を整え、現代にあった環境づくりや患者目線で物事を考えることが大切である。

① 近年の病院利用者数の推移並びにコロナ感染症の影響は。
② 外来患者のプライバシーを守る観点から呼び出しは受付番号で、そして診察室から声がもれないよう扉を設置するべきだ。

③ 一台当たりの駐車スペースが狭いため、利便性を考慮し広げるべきだ。

答 町長

② インフルエンザとの同時流行に備え、玄関での問診を行う予定で、検温については検討中。西口を発熱小児専用出入口として使用している。一般の発熱がある患者は発熱外来で対応する。
③ 入院患者との面会は禁止している。看護師、職員ともに私用で県外に出る場合は許可を得、事後には訪問経路の報告を義務付けている。



公立宇出津総合病院駐車場

答 宇出津総合病院事務局長

① 病院利用者数は人口減少率と比べ、穏やかに減少している。4月から7月の4か月間で昨年の同期比、約9%の減収はコロナ感染予防のため、健診や人間ドックなどを中止した事や外来受診を自主的に控えた事が主な原因。

答 町長

② 事前に申し出れば受付番号等で呼び出している。診察室の扉の設置は、建築基準法や消防法を踏まえた上で検討したい。
③ ラインの引き直しを含め駐車スペースの拡張を検討したい。

問 その他質問

道路愛護事業の拡充を図れ

道路河川愛護活動を地域住民で続けてもらうためには、町の支援が必要である。報奨金の算定方法を見直し、作業内容に応じた支援の拡充ができないか。

答 町長

支援方法を検討していきたい

報奨金はボランティアの清掃活動に対して感謝の意を表したものの。ただ、愛護活動に苦慮している地区もあるため、広域的に清掃活動ができる団体の発掘と育成、支援方法を検討したい。



除草作業を終えた道路



馬場 等 議員

問 能登町総合防災訓練の内容は

答 規模を縮小しての訓練内容となる

問 コロナ禍での規模の縮小は分かるが、喫緊の課題である避難所でのコロナ感染症対策を想定した訓練をするのかどうか答えよ。

問



コロナを想定した能登町防災訓練 (10月4日実施)

答 町長

新型コロナウイルスを念頭に、感染症を踏まえた自衛隊のご指導による避難場所の開設・運営訓練を予定している。避難所の開設訓練は、町防炎士や町職員による訓練とする。避難所での受付や施設内の滞在スペースのレイアウトの確認、感染症対策に必要な備品資材の取り扱い方、また発生することが予想される問題解決に向けた訓練にし、実際の避難所の開設・運営が円滑に進むよう実施する。

問 緊急しゅんせつ推進事業の策定は

答 今年度事業計画を策定した

問

町が管理する普通河川の土砂の除去処分、樹木の伐採等を含む事業で、集中豪雨による河川の氾濫を防ぐための大切な事業だと思いが、事業計画の策定は行ったか。

答 町長

緊急しゅんせつ推進事業は、今年度、令和2年度から令和6年度までの5か年計画を策定したところである。現在15河川について事業計画を予定している。なお、事業計画は、毎年度見直しを行うこととしており、15河川以外にも緊急性が高い河川が確認された場合には、事業計画への追加を検討する。

答 建設水道課長

堆積土砂等の撤去を予定しているのは、柏木川、

問 その他質問

寺田川、本木川、薬師川、寺分川、余ノ井川、岩井戸川、東谷川、新保川、山崎川の10河川で、支障木の伐採予定を計画しているのは、真脇川、黒郷川、茨町川、西谷川、滝波川の5河川である。

路線バスの利用促進事業はあるか

町として、路線バスを運営している民間事業者には運行で生じた欠損について、事業者への補助金を交付している。しかし、運行本数や利用者人数の減少を見ると、将来にわたって維持することが難しくなっていると考える。実際に利用することが大事だと思いが、そのための施策及び事業を考えているか。

答 町長

今後、実証実験等を考えている。

先月行われた公共交通協議会でも、いろいろと路線バスの利用促進についての話は出ている。その計画の中で、利用者が何を求め、どうすれば利用者増加につながるのか探るため、今後実証実験を行っていければと考えている。

予約制乗り合いタクシー事業の現状認識は

平成24年から実施している事業だが、使う人にとってシステムが分かりづらいことや、降りる場所、帰りの便数、価格設定などが現状に合わなくなっている。

答 町長

見直しは考えているか。交通空白地解消に寄与している。この事業は、町内のタクシー事業者4社によって運営されている事業であり、町が見直すというものではない。ただ、タクシー事業者も、増便や乗降場所や利用料金などについて、それぞれ考えがあると聞いている。4社の総意である見直し案がとりまとめられたら、交通協議会で諮り、石川運輸局の許可を得たうえで、タクシー事業者は見直しを行うことになる。



田端 雄市 議員

問 防災ラジオの導入を検討せよ

答 防災ラジオ導入には議論が必要



防災ラジオ (イメージ)

問 防災行政無線や屋外設置スピーカーの放送が、風向きなどで伝達困難区域や災害弱者となる要支援者や要配慮者に届かないことが心配される。現状の設備を補完するものとして、防災ラジオの導入を検討せよ。

答 町長 屋外拡声器が情報伝達には最も有効と考えている。新たな設置要望があれば、対応する。防災ラジオの導入には、議論が必要と考えている。現状の情報伝達体制を強化し、安心・安全なまちづくりのため、研究、検討を重ねる。

問 マイ・タイムラインの普及に取り組み

答 洪水ハザードマップと合わせ取り組み

問 「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」という意識を住民がもち、リスクを察知し、避難する。この行動をより確実、明確なものとするため、自分と家

答 町長 族が避難行動を時間ごと整理し、まとめるマイ・タイムラインの普及を国交省はすすめている。町も普及と啓発に取り組み。

認識している。普及に向けて、町のホームページで、国交省の策定手順や活用方針など紹介したい。また、必要性和方法については、まちづくり出前講座の防災メニューに加え、普及啓発に努めたい。

問 その他質問

問 感染症による、差別や偏見に対処せよ

報道で、コロナ感染症による誹謗、中傷が多くみられる。正しい情報を基に「新しい日常」として、感染症と共存する必要がある。今の感染症は、誰もが感染する可能性がある。我がこととして捉えなくてはならない。情

答 町長 報を冷静に受け止め、過度な不安に陥らず、感染者を責める態度を見せないことが安心につながる。町の取り組みを示せ。

意、感謝の気持ちを、各学校では、文部科学大臣からの感染症に関する正しい理解についての

学習活動をしている。差別、偏見の事例が出ないよう広報誌などを活用し周知したい。また、医療従事者など感染を拡大しないよう取り組み方々をねぎらい、敬意、感謝の気持ちを持つことが大切と考える。



市濱 等 議員



能登町第二次総合計画

問 町政今後の目標は

答 第二次総合計画を推し進める

問

新型コロナウイルスにより町の経済も疲弊している。活気づける意味を持った超能登町祭の中止は残念だ。

少子高齢化、人口減少、経済活動の低迷、特に少子化問題は深刻だ。

「共に学び、みらいを担う人づくり」、町内の学校設備に大きな格差が生じている。松波小中学

校のトイレ改修が急務だ。県が運営する学校に町費を投入しているが、常態化しているのは問題だ。特に町内の50%に満たない子どもたちが優遇されていて、自由平等、公平感が感じられない。経済効果を言うが、県立学校の問題は県に改善を求めるべきだ。

答 町長

町立学校については、町立学校と協議しながら将来を担う子どもたちのため環境の整備をやっている。また県立学校については町に1つしかない高校であるので今後もしっかりとサポートしていきたいかなければならないと考えている。

問

町村合併後、一大プロジェクトであった新統合庁舎、内浦・柳田総合支所が完成し、町政活動の拠点が見える形で姿を現した。しかしコロナ禍により観光業界、経済界はあつという間に疲弊してしまった。新型コロナウイルスによる環境の変化に、町長の生の声、職員の明るい対応と共に、今後は町民の元気が出る、活力が戻る方策を打ち出すべきだ。

答 町長

人が安心して住み続けるためにも、教育・防災・福祉を中心に様々な施策に取り組んでいく。経済対策については、5月、6月、7月、9月と新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を使い、経済支援策事業を進めている。

総合計画基本目標「人をつなぎ、地域をつなぎ、未来（あす）へ つなぐまちづくり」に従い、町民の立場に立った政策を職員と共に進め、活力あるまちづくりに努める。



7つの施策の大系図



志幸 松栄 議員

問 基幹産業の生産額及び育成への施策は

答 町の各種産業の振興に全力で取り組んでいきたい



問

町の基幹産業である農業、漁業、商工業の生産額について問うと同時に、就業者の現状と必要な施策を問う。

答 町長

当町の産業別生産額は、令和元年度に取りまとめられた統計資料では農業が33億円、漁業は32億円、商工業は340億円である。各産業界におい

ては就業者の高齢化や減少、担い手不足が課題となっており、そのための各種事業に取り組んでいる。一日も早く、コロナ禍以前の活気を取り戻すことができるよう町の各種産業の振興に取り組む。

問 情報通信・医療・福祉分野の育成等を問う

答 今後も人材不足の解消に向け積極的に取り組む

問

若い世代に就業希望が多い情報通信（ＩＴ）・医療・福祉分野の産業の育成や人材の確保における支援事業の考えは。

答 町長

昨年度策定済の第2期能登町創生総合戦略の中で、「新しい社会を創る未来技術や地域資源を活用した新しい発想の創出、商品・サービスの高付加価値化等により、能登のしごと、生業が継承されるまちを目指す」としている。今年度よりＩＴ導入相談会の開催に取り組む等今後も積極的に前進したい。

問 その他質問

シルバー人材センターへの想いは

現役世代（60歳以後・退職後）の就業支援としてシルバー人材センターへの考え方は。

答 町長

重要な組織であると考えている

当町としては、高齢者の能力を生かしながら就業の機会を確保し、生きがいの充実と社会参加の推進を図るための重要な組織だと考えている。

問 ほ場整備の状況は

答 今後も地元・県との調整を図って実施する

問

ほ場の整備方針、目的、箇所数、面積を示せ。

箇所数、全体計画面積

については、令和2年度は6地区で実施予定であり、①柳田南部地区45・

6 ha、②五十里、黒川地区35・9 ha、③寺五地区

26・8 ha、④天坂、久田地区26・5 ha、⑤柳田中

央第2地区21・3 ha、⑥瑞穂地区27・1 haの6か

所である。また、要望段階であるが、次年度以降も数地区で事業実施に向け、現在、地元や県との調整を図っている。

目的は、農家の高齢化による後継者不足や耕作放棄地の増加などの諸問題に対し、水田やその周辺を総合的に整備すること

として、大型機械などによる生産効率の向上を目指す。そして、農地の集積を図り、農業の担い手を育成することを整備方針

としている。

問

整備内のほ場にある施設の改良は。

答 町長

農業施設の改良は、ほ場を大型化することで営農作業に支障をきたす場合は改良工事をあわせて検討する。

農道や水路を改良し、その面積を増やせば農地面積が減るので、関係者との協議が前提となる。

また、実施計画区域にある県道、町道の横断や側溝については、農業用排水路の場合であれば実施検討となるが、道路施設は所管も違い、ほ場整備事業での実施はできない。県道であれば県土木事務所に、町道であれば建設水道課と協議や要望、調整を進めていく。

また、実施計画区域にある県道、町道の横断や側溝については、農業用排水路の場合であれば実施検討となるが、道路施設は所管も違い、ほ場整備事業での実施はできない。県道であれば県土木事務所に、町道であれば建設水道課と協議や要望、調整を進めていく。



向峠 茂人 議員

問 意見箱設置の目的は

答 苦情は担当課に連絡し対応させている

問

意見箱を設置した目的は。

答 町長

設置したのは平成3年に能都町時代から。目的は町民の皆さんの意見や提案など幅広く声を聞くことを目的として設置した。それが今も続いている。

問

どのような意見があり、また、町政に反映させるものは。

答 町長

合併後に投函されたのは、郵送を含めると245件で事業提案や苦情など。例えば「新庁舎内に履き替え用スリッパを」との提案にすぐ対応した。苦情については、町や職員に対する意見で、職員の資質向上のため各種研修を実施し必ず担当課に連絡、対応させている。

問

設置場所が適当でないのでは。

答 町長

意見の多くが匿名というところで、意見箱に入るところを見られたくないという方が多いと考え、現在の場所に設置している。

意見や提案については、意見箱だけでなく、電話や郵送、ホームページからも受け付けており、町民の皆様からの沢山の意見等をいただきたいと思います。



役場内に設置してある意見箱

問 防災のまちづくりを問う

答 災害に強い地域社会の形成に向けて 取り組む



堂前 利昭 議員

問

持木町政の三大政策の1つである防災のまちづくりとは、どのようなことか。どのように防災に強いまちづくりを思われているのか。どのようにして減災に努めるのか。

このコロナ禍の中で台風や地震の自然災害が発生したら、町の対応は大丈夫なのか。準備体制は整っているのか。避難所を見直す必要はないか。

答 町長

消防防災体制として、消防車両や消防装備を順次更新し、平成28年には能登消防署を、そして平成29年には、宇出津分署

を移転新築し、消防防災力の強化に努めている。

消防団員の運転免許取得に係る費用の補助や、消防団応援の店事業を展開し、消防団員の確保と資質向上に取り組んでいる。地域の防災力向上のため、自主防災組織の活動を支援し、防災士の育成にも取り組んでいる。

今後も防災、減災や住宅防火に関する幅広い視点から、災害に強い地域社会の形成に向けて取り組む。

町独自の避難所運営マニュアルを作成し、避難所を開設できるよう準備を整えている。災害の規模や被災者の状況によっては、避難所が過密になる場合もあるので、その場合は可能な限り多くの避難所を開設するとともに地域一時避難所である地区の集会所やふれあい公社管理の宿泊施設等の活用も検討する。

問 消防団応援の店の登録制度を問う

答 今後、登録店舗数が増えるよう呼びかける

問

消防団の応援の店の登録制度を導入したが、現状の加入店舗数は。また、町長自らが社長を務めるふれあい公社も応援しないのか。

答 町長

能登町消防団応援の店の登録状況は、現在の登録店舗数は13件である。事業実施から1年3か月余りが経過しており、今後さらに登録店舗数が増えるよう、事業

の趣旨を説明しながら各事業所や商店等に応援をよびかける。ふれあい公社の登録については、各施設でどのようなサービス提供ができるかを考える。



消防団応援の店（ステッカー）

町民の負託にこたえるべく 大胆な施策でコロナ禍に打ち勝つ 力強い町政に期待！

本特別委員会に付託された案件は、令和元年度における7会計の決算認定で、これら各会計決算の審査については、決算書・主要施策の成果説明書及び監査委員からの審査報告書等を検閲し、関係課等から説明を聴取した上で、予算執行が適正にかつ効率的であったかを慎重に審査し、全会一致をもって原案のとおり認定することとした。なお、審査の過程において、本委員会からの主な意見、提案等については以下のとおり。

- 一、第二次総合計画等に基づく事業について作成された主要施策の成果説明書であるが、成果指標の目標値が漠然としているものや、新型コロナウイルス感染症の影響を受け執行率が低下し、目標値に達していない事業が見受けられるため、実態に応じた目標値の設定や見直しを検討されたい。
- 一、新統合庁舎、柳田総合支所及び内浦総合支所の運用が開始され、職員の対応が良くなった、窓口がワンストップ化され利便性が向上したなどの声がある一方、時折、窓口対応についての苦情もあると聞く。建設時の基本理念であった『ひとが集い、憩い、交流する これからの能登町の活性化に大きく寄与する庁舎』をめざし、町民が来庁しやすい雰囲気づくりに努められたい。
- 一、定員適正化計画事業について、各課等における必要人員数を的確に掌握し、役職や適材適所を考慮した上で適切に配置し、時には必要に応じて各課等の垣根を超え、協力連携を図りながら、一部の職員に負担がかからないよう配慮されたい。
- 一、町税のほか、各種料金・負担金・分担金・使用料等の滞納について、滞納者の実態に応じた適切な措置を講じ、善良な納付者が不公平感を持つことのないよう、より一層の収納努力を図られたい。
- 一、水道事業について、安全な水道水の供給は、町民が日常生活を送るうえで欠かすことのできない重要なライフラインである。
今後も老朽管更新事業を計画的に実施し、さらなる有収率の向上に努められたい。
- 一、病院事業について、町民の命を守る重要な機関として、医療機器を計画的に更新され、また就学資金貸付事業を積極的にPRし、人材の発掘・確保を図ると共に、新型コロナウイルス感染症対策においても、誰もが安心して来院できるよう万全の体制を講じられたい。

終わりに、新型コロナウイルス感染症の影響により世の中の生活形態は一変し、いまだ収束の兆しが見えない状況下での町政は、今までの計画や経験だけでは、町民の安心安全な暮らしを守っていくことは困難である。

そういった中において、特に中堅・若手職員の斬新なアイデアや意見を柔軟に取り入れ、積極的に予算に組み込んでいくような環境をぜひとも構築し『町民のニーズに耳を傾け、町民に寄り添い、町民のための行政』を目指し、このコロナ禍に打ち勝つような、力強い町政運営を期待すると共に、より良い能登町になることを切に願って決算特別委員会からの総括とする。



林道河ヶ谷線舗装工事



農家民宿改修工事（宮地地内）

決算特別委員会委員長 市濱 等
副委員長 吉田 義法
委員 堂前 利昭
委員 馬場 等
委員 小路 政敏
委員 酒元 法子



議案をチェック

9月定例会議の議案質疑

岡宮田 勝二 議員

農林業継続支援緊急対策事業及び漁業継続支援緊急対策事業の給付金について

農林業における新型コロナウイルス対策の給付金の交付対象は、令和2年1月から令和2年12月の間のうちの2か月の売り上げが前年同期と比べて20%以上減少した事業者となっている。当然この2か月の設定期によっては、どの事業者も対象と考えることができると思う。町の考え方を示せ。また、畜産において、連続する2か月は、繁殖もしくは肥育では特定しにくい、できる限り救いの手をのばすべきだ。そして、漁業については4段階となっているが、どのような内容か件数とともに示せ。

農林水産課長
新型コロナウイルスの

感染拡大により、農林水産物の需要低下や価格下落の影響を受けた農林漁業者をできるだけ支援するための給付金の予算計上である。農林業については連続する2か月を対象とするが、国の持続化給付金事業の制度設計を参考としていることに鑑み、レアなケースについてもできるだけ支援したいと考えている。

漁業者の4段階の区分については、県漁協の組合員の方を対象として水揚げ金額が200万円から500万円未満の方が31件、500万円から1千万円未満の方が13件、1千万円から5千万円未満の方が12件、そして、5千万円以上は19件とカウントしている。その他の方も含め全員の方から給付請求をされても対応できるように予算計上している。



岡市濱 等 議員

継続支援緊急対策事業につき、農林業と漁業の給付対象期間について

新型コロナウイルスへの対策事業として、農林業で2千210万円、漁業で3千200万円の給付金が予算として計上されている。その給付金の対象期間が農林業では連続する2か月としているが、漁業の場合は1か月としている。その理由を示せ。

農林水産課長

国の持続化給付金は1か月という考え方が基本と理解するが、農林産物の場合は、栽培管理、集荷、出荷等一定の期間を必要とするため、連続する2か月で比較する方がコロナの影響を正確に把握できると考えた。

『タブレット議会』導入に向け研修会を開催！

議会改革の取り組みとして導入したタブレットを用いた議会運営、いわゆる『タブレット議会』の研修会を開催した。

タブレットの活用により、ペーパーの削減は元より、より効率的な議会運営、議員活動の充実、災害等の緊急時の情報共有や連絡体制強化が図られる。また、今後はコロナ禍での会議等についても、タブレットでの資料提供やオンライン会議などにも対応できる環境が整ったことにより、あらゆる状況下でも議会運営が可能となる。



タブレット研修会の風景

総務産業
建設委員
会

國盛孝昭 (委員長)
吉田義法 (副委員長)
小路政敏 酒元法子
河田信彰 志幸松栄
宮田勝三



有線放送費について、データ放送の表示改修の内容は。

有線テレビの画面から自分の住まいを選ぶと避難所情報が自動的に表示される仕組みを構築し、町民の方々がリモコンの

操作を分かりやすいようにした。操作説明の番組を現在編集している。

問

コロナウイルス感染症対策費のストレスフリー環境整備事業は6事業者、バリアフリー化促進事業は2事業者の申請とは、どのような事業者か。

答

ストレスフリー環境整備事業は、真脇・ポーレポーレ、ラブロ恋路、国民宿舎能登うしつ荘、国民宿舎能登やなぎだ荘、民宿うかわ、柳田植物公園アストロコテージの宿泊施設の6事業者で、ラブロ、ポーレポーレ、うしつ荘、やなぎだ荘は施設内の共有部分のMTECの整備を行い、外国人旅行者のストレス軽減のための事業である。また民宿うかわと植物公園アスト

ロコテージは和式トイレを洋式化するものである。バリアフリー化促進事業は2事業者、かじ旅館と植物公園でいずれも施設のバリアフリー化を進めるものである。

問

コロナに関係した今回の2次補正などで総額は

答

補正全部の事業費総額8億9836万7千円で、今回6140万円の交付金の補正をしている。トータルでは5億8980万4千円が交付金である。

◎その他について

説明 総務課

・役場の宿日直業務を試験的に10月から民間委託する。特に宿直は、宿直前日・当日・翌日と約31時間拘束する状態になっている。サービス低下にならないように現在調整をしている。

問

委託の方法は。また、実際に委託をしている自治体もあるのか。

答

現在のところ警備保障会社を考えている。県内でも宿日直業務の委託をしている業者はいくつかあるが、特に問題が起きていると聞いていない。

問

職員の場合と委託した場合との差額は。

答

経費面では、職員に約270万円。それから、警備会社の夜間警備で、年間約65万円、合計で340万円です。警備保障会社へ業務委託すると、年間で約870万円、差額が530万円ほどである。宿直明けの業務効率を考えると、外部委託した方が良く考える。ご心配のように窓口サービス、特に住民サービスが低下しないかというのは一番懸念しているが、そこは万全の態勢で進めた

問

警備保障の方が、婚姻届け等も受け付けるといふことが。

答

戸籍の届出に関しては受付なので問題は無いが、火葬許可証については工夫が必要だ。また、個人情報取り扱い等もあるが、その点については、これまで業者委託するときは秘密保持契約している、外部に出ることはない。

問

イカの駅で新たに作るモニュメントを海の中に入れて光らせたら、もっと観光客が来るのでは。

答

大型のイカのモニュメントをつくるとモニュメントをつくる芝生広場に設置する予定だ。芝生広場で子どもたちが触ったり写真撮ったりできるような仕掛けにしたい。

問

各課へ問い合わせることがあるが、いつまで

も回答がない場合がある。どのように考えているか。

答

役場への問い合わせ、特に要望の場合は記録として残すために、文章で出していたかどうかのようにしている。

問

口頭だと場合によっては、連絡がうまくいかないケースがあると推察する。

答

職員には具体的な内容を連絡いただければ注意する。

問

先日、私の住んでいる地域で水道のパンプが起こって緊急断水があったが、同じように危険な箇所が能登町全体でどれくらいあるのか。

答

今回、破裂したような40年を経過した石綿の老朽管は能登町全体で約10km近く残っている。それを5年かけて直す計画の現在3年目である。

教育厚生 委員会

田端雄市（委員長）

馬場 等（副委員長）

堂前利昭 金七祐太郎

市濱 等 向峠茂人

鍛冶谷真一



問

新人・再就職介護従事者就業支援給付金の100万円は何人分の予算か。

答

資格保持者が8名、資格なしが4名の12名である。12名分は補正額と合わせて、200万である。

問

予防接種事業について子ども、高齢者はそれぞれ何人の予算か。また高齢者は65歳以上だが、この位置づけの変更はないのか。対象者外の方に町で補助は出せないのか。

答

子どもは1歳から18歳で2回接種する年齢もあるので、延べで1,756人、高齢者は7,800人の6割の4,680人を見込んでいる。高齢者の位置づけの変更は今のところない。

問

旧神野小学校解体のアシベスト対策について当初でも今回の補正でも予算計上している。金額も大きく、健康被害にもかかわることなので、昔の書類がどこまで残っているのかわからないが、



前の書類を確認することで、事前に分かる部分があると思う。

後からアシベストが出てくるのが正しいのか、正しくないのか。

答

学校施設に関しては、毎年国のアシベスト保有施設の対策調査をしており、その調査報告では以前から「アシベスト対策済み」となっている。概算段階では判断できない。実施計画をして疑わしきところを調査して初めてわかる。アシベストがない状態で工事費予算を確保している。見えない部分に使用されていて調査して初めてわかることがある。

問

オンライン授業の取り組みや、先生たちへの指導等はどうなっているのか、また、デジタル教科書を買うと紙の教科書はいらなくなるのか、両方買わなければならないのか。

答

オンライン授業については研修会を検討している。学習者用のデジタル教科書については使用方法等が不明なため、現段階では分からない。パソコンの使用については、小学校1年生から中学校3年生まで同じものを使うので、低学年については、QRコードを読み



取って起動出来るようにしたいと考えている。各学年に主任教員を設けて勉強会を開いていく。

問

藤波運動公園、内浦運動公園内の伐採について状況は。また、切った後の植栽は考えているか。

答

藤波運動公園は約14本、内浦運動公園は約80本。枯れているものもあれば、枯れそうなもの、強風で倒れそうなものもあるため、早急に対応したい。切った後の植栽については考えていない。

問

県補助金の病床機能転換事業補助金は、減少病床数に応じた金額か。そうだとすれば、どういった考え方に基づくのか。

答

120床から100床に減らした分である。県や国は、地方病院の病床数を減らしたいと考えており、減らした分お金も

かかるだろうから、補助金を出すというものである。

問

内浦地区にある旧内浦クリーンセンターの解体事業について、近くにある業者や下にある田んぼは刈り入れの時期だが、保護や配慮の予定はあるか。

答

ごみ焼却炉の解体事業は、ダイオキシン類の暴露防止のため、作業工程などを所管の労働基準監督署に届け出なければならぬので、今すぐの解体はない。ダイオキシン類の除去をして作業をおこなう。

7月から9月の主な議会活動

- 7月6日 広報編集特別委員会
- 7月9日 能登地区町議会連絡協議会総会（志賀町）
- 7月13日 議会運営委員会
- 7月20日 広報編集特別委員会
- 7月21日 議会運営委員会・全員協議会・第5回能登町議会7月会議
- 7月21日 タブレット議会研修会
- 8月7日 長野県信濃町との姉妹都市締結調印式
- 8月11日 議会運営委員会
- 8月12日 珠洲市議会行政視察（来町）
- 8月19日 石川県町村議会議長会 議員・監査委員
合同研修会（津幡町文化会館）
- 8月27日 議会運営委員会
- 8月27日 石川県町村議会議長会
議長・副議長・委員長研修会
（石川県地場産業振興センター）
- 9月3日 全員協議会
- 9月7日 第6回能登町議会9月定例会議（議案上程）
- 9月8日 各常任委員会
- 9月9日 決算特別委員会（～14日まで）
- 9月16日 第6回能登町議会9月定例会議（一般質問）
- 9月17日 第6回能登町議会9月定例会議（採決）



タブレット議会の視察に訪れた珠洲市議会一同

令和2年度出欠状況表

○…出席 欠…冠婚葬祭 通院 私事都合等により欠席 一…対象外 オ…オブザーバーとして議長が出席

月 日	会議名	議員名												
		吉田 義法	堂前 利昭	馬場 等	田端 雄市	金七 祐太郎	國盛 孝昭	市濱 等	小路 政敏	酒元 法子	河田 信彰	向峠 茂人	志幸 松栄	宮田 勝三
02/07/06	広報編集特別委員会	○	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○
02/07/13	議会運営委員会	-	-	-	○	○	○	-	○	-	オ	○	-	○
02/07/20	広報編集特別委員会	○	○	○	-	-	-	-	○	○	-	-	-	○
02/07/21	議会運営委員会	-	-	-	○	○	欠	-	○	-	オ	○	-	○
02/07/21	全員協議会	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
02/07/21	7月会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
02/07/21	タブレット議会研修会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
02/08/11	議会運営委員会	-	-	-	○	○	○	-	○	-	オ	○	-	○
02/08/27	議会運営委員会	-	-	-	○	○	○	-	○	-	オ	○	-	○
02/09/03	全員協議会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
02/09/07	9月定例会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
02/09/08	各常任委員会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
02/09/09	決算特別委員会	○	○	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
02/09/10	決算特別委員会	○	○	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
02/09/11	決算特別委員会	○	○	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
02/09/14	決算特別委員会	○	○	○	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-
02/09/16	9月定例会議	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○
02/09/17	9月定例会議	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



インタビュー

今回のまちかどインタビューは、株式会社蒼天の橋口知信専務を訪ねました。

インタビューアー

河田 信彰

◆蒼天はどのような会社ですか？

内装仕上げの工事の請負と注文住宅の取り付け家具や、ショッピングモールの陳列棚など、特注家具の製造をしています。



職人の誇りを胸に
家具製品への飽くなき挑戦とこだわり

本社は能登町で、大阪、名古屋に営業所と工場があります。従業員は全体で56人です。能登町の家具の製造工場には25人働いています。

これまで能登町でやらせていただいた仕事は、住宅家具はもちろん、回転寿司の店舗のテーブルや装飾家具、役場新庁舎の家具や柳田総合支所の受付カウンター、イカの駅の家具などを手掛けさせていただきました。コロナの影響は多少ありますが、おかげさまで忙しくさせていただけます。

◆橋口さんが蒼天に勤められたきっかけはなんですか？

元々、実家が家具店を経営していたのですが、兄が独立してこの会社をはじめました。私は大学で建築を学び、社会人になってからは建設会社に勤めています。

た。それから、兄が会社を創業するというところで、それまでの経験を活かし、当初から主に工場働いています。

◆工場には若い従業員が多く活気がありますね。

はい。平均年齢は38歳ぐらいではぼ地元から採用しています。やる気があつて頼もしい連中ばかりです。

◆その若い従業員が多い中、橋口さんは専務として普段から気をつけられていることはなんですか？

材料を切り抜く機械など専用の大型機械を使いこなす技量をつけることはもちろんのことですが、設計士の設計の意図を読み取り正確な製品を仕上げるよう、従業員に指示しています。お客様に喜んでもらえる仕事が一番です。そこは厳しく言っているつもりです。そして、安全面についてもうるさく注意をしています。それと、自分と遠

慮なく意見が交わせるように、食事や一緒にゴルフをしたりして、仕事外でのコミュニケーションを大切にしています。

◆最後にひとこと

能登町に会社を構えていますので、従業員を地元から採用するなど、少しでも町に貢献できたらいいなと思っています。そのためには仕事が順調でなくてはなりません。あくまで自分たちは職人だという誇りを持ちながら、仕事の大小にかかわらずこれからも一生懸命邁進していきます。



次の定例会議は 12月7日開会です。

議会の日程については、決定しだい町のホームページ、または有線テレビでお知らせしています。ぜひ傍聴にお越しください。ご意見などありましたら、議会事務局へご連絡ください。

広報編集	
特別委員会	
委員長	酒元 法子
副委員長	堂前 利昭
委員	吉田 義法
	馬場 等
	河田 信彰
	鍛冶谷 眞一

編集後記
今回、取材で橋口さんにお話しを聞かせていただき、その郷土愛と熱い想いに感動しました。私たち議会としても、こういった若い世代の方々が能登町に残って活躍できる環境づくりと、継続していくことができるサポート体制を構築し、しっかりと後押しできるように精進してまいりたいと思っております。
(委員 河田 信彰)